

2 ピカピカピロコ

松戸

9R

協力：金沢ホースマンクラブ
後援：金沢競馬場興業協会
発行者：遊馬プラス編集部

無料

ご自由にお持ちください

www.kanazawakeiba.com

2025年12月

vol. 59

総編集：ゆきおきく
編集 E-Mail: yushunplus@gmail.com
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>



ピロコの夢は淀ひろく

白菊賞

十一月三十日、中央競馬の京都競馬場で二歳牝馬限定の一勝クラス「白菊賞」が行われ、ここに井樋厩舎のピカピカピロコが遠征した。

ピカピカピロコは地元金沢で松戸政也騎手とのコンビで三連勝中。人馬共に初めての中央挑戦となった。パドックではその愛らしい名前とたたがみの十一本の編み込みやリボンがついたメンコで目一杯おめかしした姿に、時折尻つばねをして見せるおてんばぶり。さらに地元金沢でもお馴染みの百万石の松戸スマイルで中央のファンも注目。ファンサービスでもするようにどの出走馬よりも長くパドックを歩いていた。

レースは終始離れた最後方からの競馬。最終的には園田からの遠征馬ベラジオレジーナを交わしての十一頭中の十着。しかしながら追い込んで伸びてはいて九着の中央馬までは〇・三秒差にまで迫った。

レース後、金沢から応援に駆け付けたファンや中央のファンからピカピカピロコの中央挑戦に拍手や歓声が起き、松戸騎手がヘルメットを脱いでファンに一礼をする場面も。

厳しい結果にはなったが、この経験から金沢競馬に戻ってピカピカピロコがどんな走りを見せるか、来年



ピカピカピロコ

どこまで強くなるか。そして、この挑戦に続く馬は金沢から現れるのか。いろいろと期待をしたくなるチャレンジの一戦だった。

初重賞で記録更新 中目杯

師走名物の中距離オールスター戦、伝統の第六一回中目杯。今年の中距離重賞を賑わせたメンバーが集まったこのレース。

一番人気は前走北國王冠で地元勢最先着だったクエアフルストが単勝一倍台の抜けた人気。次いで百万石賞以来の実戦のナミダノキス、地元勢相手ならオール連対のマンガンが続いた。

ゲートが開くとスタートでハナに立ったクエアフルストを大外の前年優勝馬マリンドュンデュンが抑えてハナに立つ。クエアフルストはマリンドュンデュンを見る形で二番手追走。ナミダノキス、マンガンは中団後ろからレースを進める。

二周目向こう正面でも前二頭の逃げは変わらず。去年の中目



クエアフルスト

杯と似ているなと思ったその時、去年と同じ轍は踏まないと言わんばかりに吉原騎手が動く。

三コーナーでクエアフルストがマリンドュンデュンを交わして先頭に立つ。後方につけていたナミダノキスも三番手にまで上がって前を追走。最後の直線に入ってクエアフルストが抜け出して先頭。そこにナミダノキスが猛然と追い込んで迫る。そして、半馬身差まで迫った所がゴールだった。

三着には直線入口で後方にいたダイヤモンドラインが最速の上りで食い込んだ。

クエアフルストは初重賞制覇、鞍上の吉原寛人騎手は地方所属騎手の地方重賞最多勝利数となる通算二〇一勝めとなった。

クエアフルストの強さが目立ったが、休み明け久々のナミダノキスが迫る走りは負けてなお強しと言える。来年の中距離戦線はこの二頭で回っていきそうだ。



早くも一強? 二歳戦線

金沢競馬で開催される二歳重賞は四レースあるが、そのうち三レースを制したのがダノンプレミアム産駒の牝馬エムティジーク。



エムティジーク

Photo by miwa

その三戦も六馬身、三馬身、六馬身と他馬を寄せ付けない勝ちっぷり。出鞭を入れて先頭に立ち、逃げてレースを進めて最後は突き放す走りはまさに圧巻。距離も金沢ヤングチャンピオンで一七〇〇mまで克服しているので三歳重賞も問題なさそう。

ただ二着に敗れた二戦はいずれもハナを切れなかったレース。隙があるとなればこの辺りだろうか。

牝馬の重賞の金沢シンデレラカップは兵庫からの遠征馬が勝ったので金沢の二歳馬で重賞を制したのがエ

ムティジークしかない状況。その金沢シンデレラカップと金沢ヤングチャンピオンの二重賞で二着に入ったのはマテラスカイ産駒の牝馬グリーゼ。

門別でデビュー戦を勝利するもの後は五戦走って結果が出ず。金沢に移籍するといきなり重賞で二着。その後も二つの重賞を走って四着二着と好走を続けた。実績的には申し分なさそうだが、重賞でエムティジークに二回挑んで二回とも一秒以上離されている。この差を来年どう埋めていくのか注目したい。

実績で言えばフィレンツェファイア産駒の牝馬ケーズコマクサも忘れてはいけない。

こちらは準重賞のくるゆり賞を制し、石川テレビ杯二着、ネクストスター三着。デビューから重賞でも掲示板を外さない安定した走りを見せる。父の現役時代の勝鞍は一二〇〇m前後に集中し、産駒の勝鞍も芝



ケーズコマクサ

Photo by miwa

ダート問わないが、やはり一二〇〇mのレースが多い。

ケーズコマクサは現在一四〇〇mを使われ続けているが来年さらに距離を延ばしに行くのか。伸ばしてきた時の走りに注目。

エムティジークとは未対戦で未知の魅力があるのがエポカドーロ産駒の牝馬ピカピカピロコ。

新馬戦三着から三連勝を飾り、果敢にも中央の芝に挑戦。結果は十着だったが、速い流れはいい経験になったのではないかな。金沢では重賞の出走はなく、有力どころとの走りに期待したい。

そして注目したい一頭がアニマルキングダム産駒の牝馬キャンパスレディ。



キャンパスレディ

石川テレビ杯はエムティジークから五秒以上離されての十着。しかし、一か月後の同距離の次走でタイムを三秒以上縮めて大差で初勝利を収め

ると、同距離の次走で一秒以上さらに縮めてケーズコマクサに四馬身差で勝利。そして距離を伸ばした次走では九馬身差で圧勝と走る度に強くなっていく。祖母がスプリンターズS等を勝ったニシノフラワーの妹で母が中央で吉原騎手を背に京阪杯を勝ったネロの姉と短い距離の方が合っているような血統。しかし、来年に再度エムティジークと当たる事があればこのスピードを武器にしてハ



この二歳戦の勢力図がそのまま三歳に引き継がれるか、まだ見ぬ強豪が現れるのか。

来年の金沢競馬も楽しみだ。

話を二〇二六年に向けてと三度目のJBC開催が控える。

二〇二四年に発生した能登半島地震に対して希望の光となるよう選定されたようだが、それに加えて金沢競馬自身の大雨被害からの復活を全国に知らしめる場ともなる。

前回の五年前はコロナ禍により抽選による来場者の制限がある中での開催だった。今回は前々回の二〇一三年以来の制限のない開催となり、大きな盛り上がりが今からでも予測できる。

前々回はエスポワールシチーが当時最多タイのGⅠ級競走九勝を記録し、前回はミューチャリーが史上初の地方所属馬によるJBCクラシック制覇を達成した。

何かが起きるJBC金沢。来年は何の遠慮も気兼ねもなくこの大舞台を楽しみたい。そして、また五年ぶりにこの遊駿も忙しい一年になりそうだ。

しかし、関係者の再開への大変な努力、全国の地方競馬場が復興支援競走を開催、ファンのエールなど後押しもあつて一か月で再開できるまでになり、十月の白山大賞典は無事に開催することができた。

金沢競馬の底力を見た感があるが、一方で同じことを繰り返さない方策、場内の飲食店などへの支援といった事後処理も徹底してもらいたい。